



**JT Group**

# 2024年度 第2四半期 決算説明会

---

**古川博政**

JT Group CFO

※本資料に含まれる数値は各事業の業績を分かりやすく説明するために使用しており、財務諸表の数値と異なる場合があります。

※用語の定義については、スライド17以降に記載しております。

# 将来に関する記述等についてのご注意

本資料には、当社又は当社グループの業績に関連して将来に関する記述を含んでおります。かかる将来に関する記述は、「考えています」「見込んでいます」「予想しています」「予想しています」「予見しています」「計画」「戦略」「可能性」等の語句や、将来の事業活動、業績、事象又は条件を表す同様の語句を含むことがあります。将来に関する記述は、現在入手できる情報に基づく経営者の判断、予測、期待、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。これらの記述ないし事実又は前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もなく、当社としてその実現を約束する趣旨のものでもありません。また、かかる将来に関する記述は、さまざまなリスクや不確実性に晒されており、実際の業績は、将来に関する記述における見込みと大きく異なる場合があります。

その内、現時点で想定される主なものとして、以下のような事項を挙げることができます（なお、かかるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません）。

1. 喫煙に関する健康上の懸念の増大
2. たばこに関する国内外の法令規則による規制等の導入・変更（増税、たばこ製品の販売、国産葉たばこの買入れ義務、包装、ラベル、マーケティング及び使用に関する政府の規制等）、喫煙に関する民間規制及び政府による調査の影響等
3. 国内外の訴訟の動向
4. たばこ事業以外へ多角化する当社の能力
5. 国際的な事業拡大と、日本国外への投資を成功させる当社の能力
6. 市場における他社との競争激化、お客様の嗜好・行動の変化及び需要の減少
7. 買収やビジネスの多角化に伴う影響
8. 国内外の経済状況
9. 為替変動及び原材料費の変動
10. 自然災害及び不測の事態等

# 2024年度 第2四半期実績

---

# 2024年度 第2四半期 全社実績：引き続きたばこ事業が牽引し、増収増益



(億円)	2024年 1-6月	前年同期比
為替一定ベース		
Core revenue	<b>14,224</b>	+6.2%
調整後営業利益	<b>4,548</b>	+2.7%
財務報告ベース		
売上収益	<b>15,699</b>	+12.7%
調整後営業利益	<b>4,531</b>	+2.3%
営業利益	<b>4,327</b>	+4.6%
四半期利益	<b>3,052</b>	+6.3%
FCF	<b>1,798</b>	+249億円

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

## 売上収益・調整後営業利益

- 売上収益は、主に底堅いプライシング効果が牽引したたばこ事業における増収が、医薬事業における減収を上回り、増収
- 調整後営業利益は、たばこ及び加工食品事業における増益が、医薬事業における減益を上回り、増益

## 為替影響（たばこ事業）

- 調整後営業利益においては、円安によるポジティブな影響はあるものの、一部新興国通貨安及びコスト関連通貨高の影響を主因として、ネガティブに発現

## 営業利益

- 調整後営業利益の増加に加えて、調整項目における商標権償却費の減少により、増益

## 四半期利益

- 営業利益の増加に加え、金融損益の改善により、増益

## FCF

- 調整後営業利益の増加に加え、運転資本の改善により、増加

# たばこ事業 数量実績：継続的なシェア伸張が数量成長を牽引



(億本)	2024年 1-6月	前年同期比
総販売数量	2,749	+2.0%
Combustibles 販売数量	2,696	+1.7%
GFB販売数量	2,002	+4.0%
RRP販売数量	52	+25.5%

## Combustibles

- 多くの市場でシェアモメンタムが継続
- GFB販売数量はWinston及びCamelの牽引により、前年同期比4.0%の増加
- EMAクラスターにおける力強い数量成長
  - 新興国における力強いモメンタム
  - 堅調な総需要
  - アジアを中心としたGlobal Travel Retailにおける数量増が継続
- 日本、フィリピン、英国におけるCombustibles総需要の減少

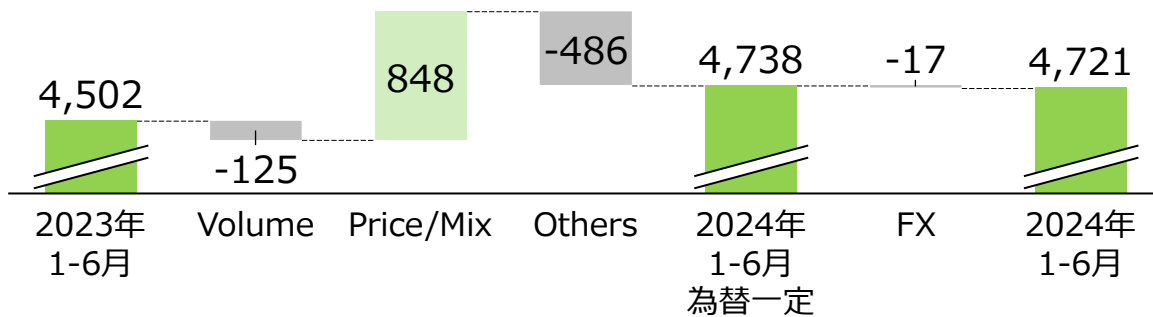
## RRP

- 日本におけるHTSカテゴリ内シェアの伸張
- WEクラスターをはじめとしたPloomの新規ローンチ市場における数量貢献

# たばこ事業 財務実績：プライシングがトップライン成長を牽引

(億円)	2024年 1-6月	前年同期比
自社たばこ製品売上収益	<b>13,918</b>	+14.3%
(同 為替一定)	<b>13,039</b>	+7.1%
調整後営業利益	<b>4,721</b>	+4.9%
(同 為替一定)	<b>4,738</b>	+5.3%

調整後営業利益 増減要因 (億円)



注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの実績は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースの実績は、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の増加分について、一定の算定方法を用いて控除しています。

## Volume

- 総販売数量は増加したものの、市場構成比への不利な影響により数量効果はネガティブ

## Price/Mix

- 引き続き多くの市場においてプライシング効果が発現し、ダウントレーディングによるMix悪化の影響を上回る

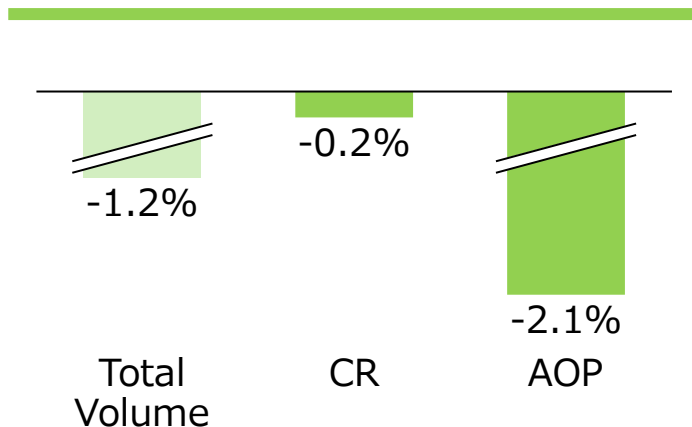
## Others

- HTSへの投資強化
- インフレの進行に伴うサプライチェーンコストの増加

## FX

- 円安によるポジティブな影響はあるものの、一部新興国通貨安及びコスト関連通貨高を主因に、調整後営業利益に対しネガティブに発現

## ASIA



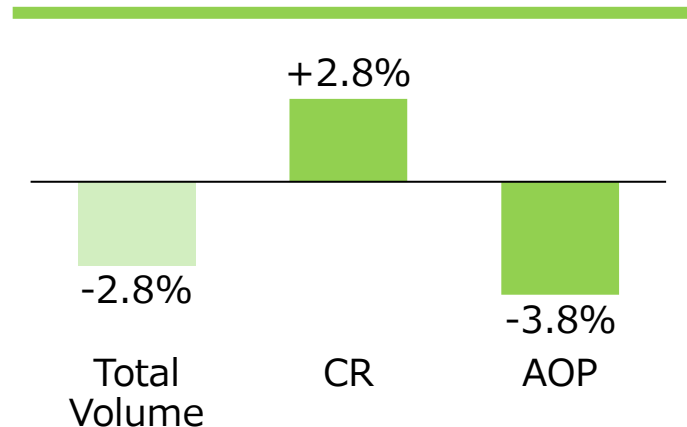
### Total Volume

- フィリピン・台湾における市場シェア伸張
- 日本におけるPloomの伸長
- 日本・フィリピン・台湾におけるCombustibles総需要の減少

### CR/AOP

- 複数市場で発現したプライシング効果が、ネガティブな数量効果を相殺
- サプライチェーンコストの増加

## WESTERN EUROPE



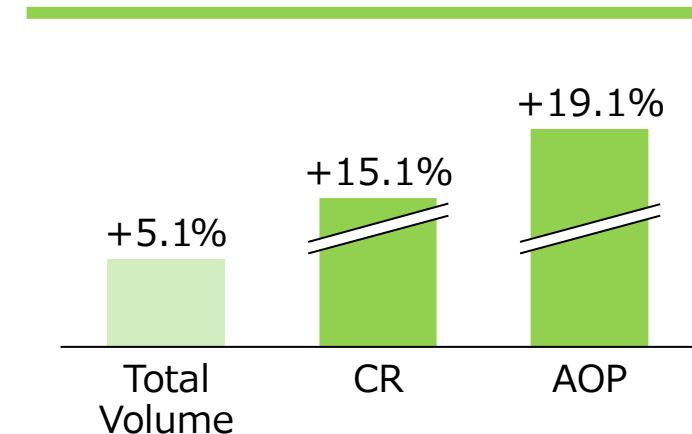
### Total Volume

- イタリアをはじめとした複数市場における市場シェア伸張
- Ploomの新規投入市場における数量貢献
- 英国等におけるCombustibles総需要の減少

### CR/AOP

- 英国を中心に発現したプライシング効果がネガティブな数量効果を相殺
- Ploomの地理的拡大に伴う投資強化
- サプライチェーンコストの増加

## EMA



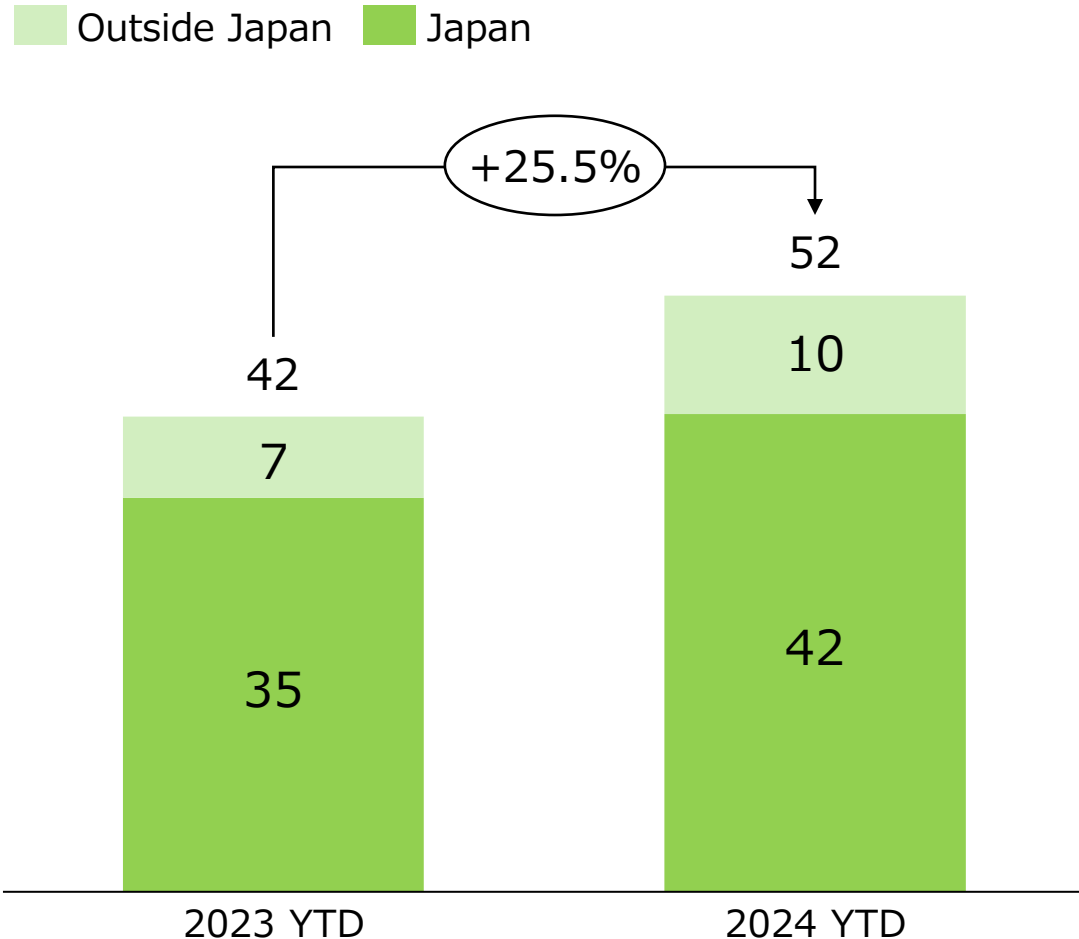
### Total Volume

- 多くの市場における市場シェア伸張
- アジアを中心としたGlobal Travel Retailの数量増
- 複数市場における堅調な総需要

### CR/AOP

- ポジティブな数量効果
- 複数市場におけるプライシング効果
- Ploomの地理的拡大に伴う投資強化
- サプライチェーンコストの増加

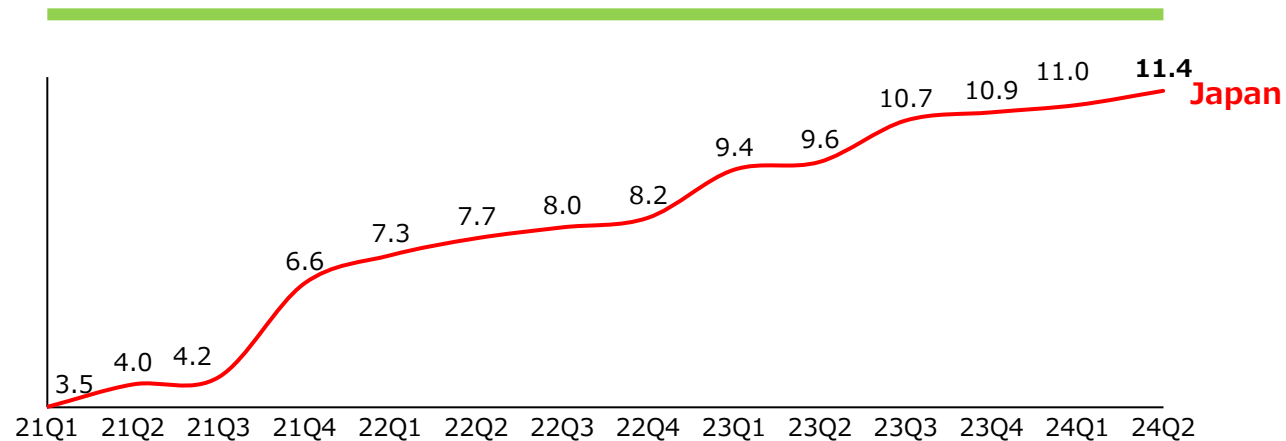
## RRP販売数量（億本）



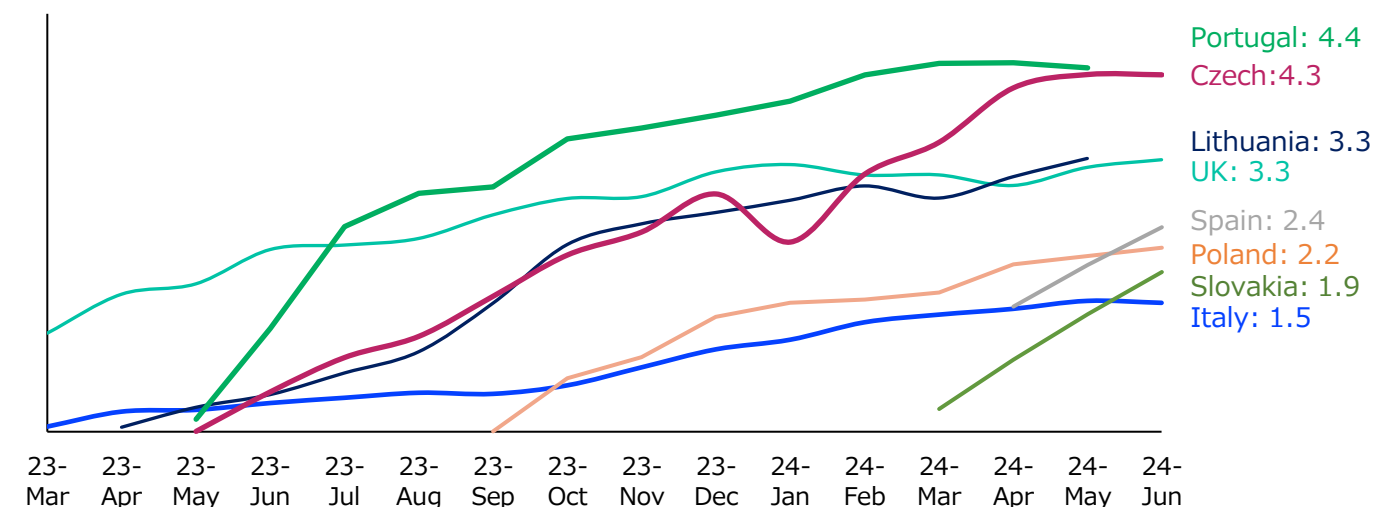
- Ploomの展開市場は21市場へ拡大
  - 展開市場数の増加に伴い、日本以外での販売数量は着実に増加
- 継続的なマーケティング施策の実施により、RRP販売数量は成長
  - 日本におけるPloom販売数量は約36%の増加と、HTS総需要の拡大ペースを上回る成長
  - ローンチ済みの海外市場においても、デバイス・スティックともにお客様からのフィードバックは良好
- Ploom販売数量の増加に伴い、RRP関連売上収益も前年同期比約29%増加



## PloomのHTSカテゴリ内シェア<sup>1) 2)</sup>



1) 日本のシェアは四半期ベースのカテゴリ内シェア



2) 日本以外の市場はローンチエリアにおけるカテゴリ内シェア

### Japan

- 効果的なプロモーション及びマーケティング施策が奏功し、日本におけるPloomの認知は着実に向上。24年6月のカテゴリ内シェアは11.5%に到達

### Outside Japan

- 直近投入した市場においても発売初期から一定のシェアを獲得、その後も順調に推移
  - Slovakia : 1.9% (24年3月発売)
  - Spain : 2.4% (24年4月発売)
- ローンチ済みの市場を合算した、24年6月のHTSカテゴリ内シェアは8.2%<sup>3)</sup>へと到達。28年の中期展望である10%台半ばのHTSセグメントシェア獲得に向けて順調に進捗

3) チェコ、ギリシャ、イタリア、日本、ポーランド、ルーマニア、スロベニア、英国におけるデータを基に推計したカテゴリ内シェア

## 医薬事業

(億円)	2024年 1-6月	前年同期比
売上収益	441	▲36
調整後営業利益	40	▲61

### 売上収益

- 鳥居薬品において、皮膚疾患領域及びアレルギー領域の売上伸長があったものの、2023年に発生した導出品のライセンス契約に係る一時金収入の剥落により、減収

### 調整後営業利益

- 売上収益における一時金収入の剥落影響及び研究開発費の増加により、減益

## 加工食品事業

(億円)	2024年 1-6月	前年同期比
売上収益	738	+4
調整後営業利益	44	+14

### 売上収益

- 価格改定効果が、家庭用製品の販売減少及び製品ポートフォリオの見直しによる一部製品の販売終了に伴う影響を相殺し、前年同水準

### 調整後営業利益

- 前年度及び今年度を実施した価格改定効果が原材料費の高騰等を上回り、増益

# 2024年度 修正見込

---

# 2024年度 全社修正見込

(億円)	2024年 修正見込	対当初見込 増減	前年度比
為替一定ベース			
Core revenue	<b>28,560</b>	+ 200	+ 4.7%
調整後営業利益	<b>7,450</b>	+ 170	+ 2.3%
財務報告ベース			
売上収益	<b>31,090</b>	+ 930	+ 9.4%
調整後営業利益	<b>7,100</b>	+ 220	▲ 2.5%
営業利益	<b>6,600</b>	+ 120	▲ 1.8%
当期利益	<b>4,750</b>	+ 200	▲ 1.5%
FCF	<b>3,760</b>	+ 160	▲ 677億円

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の上半期における増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

## 売上収益・ 調整後営業利益

為替一定・財務報告ベース共に当初見込から上方修正

- **売上収益：**
  - 全事業において上方修正
  - 円安に伴いポジティブな為替影響は当初見込比で拡大する見込み
- **調整後営業利益：**
  - 売上収益の上方修正により、上方修正
  - 円安に伴いネガティブな為替影響は当初見込比で縮小する見込み

## 営業利益・ 当期利益

いずれも上方修正

- **営業利益：**調整後営業利益の上方修正が調整項目における費用の増加等を上回り、上方修正
- **当期利益：**営業利益の上方修正に加え、金融損益の改善等により、上方修正

## FCF

対当初見込 + 160億円

- 調整後営業利益の上方修正及び運転資本等の改善が、資本的支出の増加等を相殺し、上方修正

# 2024年度 たばこ事業：修正見込

## 数量前提

	2024年 修正見込	当初見込
総販売数量	当初見込から 変更なし	前年度比 ▲1.0%～▲0.5%

## 財務見込

(億円)	2024年 修正見込	対当初見込 増減	前年度比
自社たばこ製品 売上収益	27,470	+1,120	+10.8%
(同 為替一定)	26,050	+150	+5.1%
調整後営業利益	7,550	+300	+0.7%
(同 為替一定)	7,900	+250	+5.4%

注：IAS第29号超インフレ会計の適用に伴い、上記の表に記載の財務報告ベースの見込は超インフレ会計の影響を含みます。為替一定ベースについては、特定市場のハイパーインフレーションに伴う売上及び利益の上半期における増加分について、一定の算出方法を用いて控除しています。

## 数量前提

当初見込から変更なし

- (+) Combustiblesのシェア伸張
- (+) Ploomの牽引によるRRP販売数量の伸長
- (-) フィリピン・英国等、一部主要市場におけるCombustibles総需要の減少

## 財務見込 為替一定ベース

自社たばこ製品売上収益：対当初見込 +150億円  
調整後営業利益：対当初見込 +250億円

- (+) 上期における想定を上回るプライシング効果の発現
- (+) RRP販売数量の伸長に伴うRRP関連売上収益の増加
- (-) 日本及び英国等における数量前提の下方修正に伴う市場構成比の悪化
- (+) サプライチェーンコストの低減
- (-) Ploomへの投資強化

## 財務見込 財務報告ベース

自社たばこ製品売上収益：対当初見込 +1,120億円  
調整後営業利益：対当初見込 +300億円

- 調整後営業利益におけるネガティブな為替影響は、円安影響により当初見込比で縮小する見込み（当初見込：▲400億円 / 修正見込：▲350億円）

# 2024年度 医薬事業・加工食品事業：修正見込

## 医薬事業

(億円)	2024年 修正見込	対当初見込 増減	前年度比 増減
売上収益	<b>930</b>	+45	▲19
調整後営業利益	<b>70</b>	+30	▲104

## 加工食品事業

(億円)	2024年 修正見込	対当初見込 増減	前年度比 増減
売上収益	<b>1,565</b>	+5	+26
調整後営業利益	<b>70</b>	-	+2

### 売上収益

**対当初見込 +45億円**

- 鳥居薬品における上方修正に加えて、円安による海外ロイヤリティ収入の増加を見込むことから、上方修正

### 調整後営業利益

**対当初見込 +30億円**

- 売上収益の上方修正に加えて、鳥居薬品における販管費の精査等により、上方修正

### 売上収益

**対当初見込 +5億円**

- 調味料事業における販売伸長により、上方修正

### 調整後営業利益

**当初見込から変更なし**

- 売上収益の上方修正はあるも、ネガティブな為替影響等を織り込み、当初見込から修正なし

# Closing remarks

## 1-6月期実績

- たばこ事業における堅調なプライシングが力強いトップライン成長を牽引
- 販売数量及び売上収益の双方において、RRPカテゴリの貢献が拡大
- 加工食品事業の増益もグループの利益成長を補完

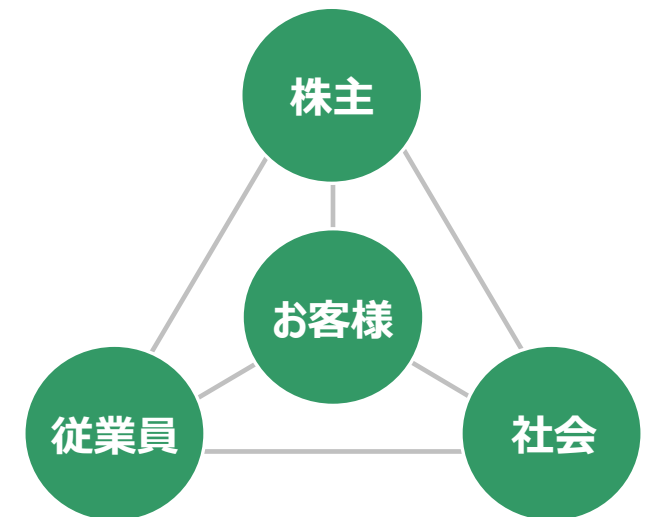
## 修正見込

- たばこ事業における上半期の力強いモメンタムを反映し、全社為替一定ベースの調整後営業利益を上方修正
- 財務報告ベースにおいても、堅調なビジネスモメンタムに加えて、円安によるアップサイドを織り込み、上方修正

## 株主還元

- 一株当たり年間配当金予想は、当初の194円から変更なし
- 中間配当は97円

心の豊かさを、  
もっと。





# <用語の定義>

調整後営業利益（AOP）：	営業利益 + 買収に伴い生じた無形資産に係る償却費 + 調整項目（収益及び費用）* *調整項目（収益及び費用）= のれんの減損損失 ± リストラクチャリング収益及び費用等
為替一定ベース：	前年同期の為替レートを用いて換算／算出することにより、為替影響を除いた指標。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
為替一定ベースcore revenue：	前年同期の現地通貨対米ドル、米ドル対円の為替レートを用いて換算／算出することにより為替影響を除いた自社たばこ製品売上収益 + 医薬事業・加工食品事業・その他の売上収益。ただし、為替一定ベースの実績は追加的に提供しているものであり、国際財務報告基準（IFRS）に基づく財務報告に代わるものではない
当期利益/四半期利益：	親会社の所有者に帰属する当期利益/四半期利益
Reduced-Risk Products (RRP)：	喫煙に伴う健康リスクを低減させる可能性のある製品。当社製品ポートフォリオにおけるheated tobacco sticks (HTS), infused-tobacco capsules (Infused), E-Vapor, 無煙たばこ製品等が含まれる
Heated tobacco sticks (HTS)：	高温加熱型の加熱式たばこ。1スティック = RMC1本として換算
Combustibles：	製造受託／水たばこ／加熱式たばこ／無煙たばこ／E-Vaporを除く可燃性のたばこ製品
GFB： (Global Flagship Brands)	Winston、Camel、MEVIUS、LDの4ブランド

## <用語の定義>

総販売数量： 水たばこ／製造受託／RRPデバイス及び関連アクセサリーを除くたばこ製品の販売数量

Combustibles販売数量： 水たばこ／E-Vapor／無煙たばこ（Snus・ニコチンパウチ）／加熱式たばこ／製造受託を除くたばこ製品の販売数量

RRP販売数量： Reduced-Risk Products (RRP)の販売本数（RMCとして換算）。デバイス/関連アクセサリー等は含まない

Ploom 販売数量/HTS 販売数量 Heated tobacco sticks (HTS)であるPloom の販売数量。デバイス／関連アクセサリー等は含まない

自社たばこ製品売上収益： 物流事業／製造受託等を除く売上収益